

TENURE TRACK

Newsletter



大阪市立大学テニユアトラック
ニュースレター
文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
テニユアトラック普及・定着事業

OCUテニユアトラック研究集会を開催

平成28年12月9日(金)、大阪市立大学 杉本キャンパス 学術情報総合センター1階 文化交流室にて、OCUテニユアトラック研究集会を開催しました。内田テニユアトラック普及・定着事業(以下、TT事業)実務会議議長による、本学のテニユアトラック事業の紹介を含めた開会の辞で始まり、荒川学長による『市大が輝きを増すために』と題しての講演、岡山大学 竹内准教授と福島県立医科大学 村上准教授による招待講演、そして本学テニユアトラック教員による研究発表が行われました。本研究集会は、共通のサブテーマとして、「科学・技術・社会の未来」を掲げており、それぞれ、興味深い講演や研究発表や熱心な討論が行われました。最後に、櫻木TT事業運営委員会委員長による、テニユアトラック教員に対する今後の研究発展への期待を込めた閉会の辞で終了しました。



研究集会の様子

荒川学長による講演

「市大が輝きを増すために」と題して講演が行われました。講演では、大阪市立大学の設立に大きな役割を果たした五代友厚氏のように、「サムライ魂」を若手研究者が持つことを期待するスピーチが行われました。また、『笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点事業』をスローガンに、3つの重点戦略(①都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献、②専門性の高い社会人の育成、③国際力の強化)についての紹介も行われました。



荒川学長による講演の様子

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 テニユアトラック普及・定着事業

OCUテニユアトラック研究集会

「科学・技術・社会の未来」を共通のサブテーマとして
学長、新進気鋭の研究者による講演
テニユアトラック教員の研究発表を行います

[日時]

2016 12.9 [Fri]
10:00~17:30

[場所]

大阪市立大学 杉本キャンパス
学術情報総合センター
1階 文化交流室

[参加申込み]

参加費無料です。
氏名、連絡先をご記入の上、
下記の申込み先に電子
メールでお申込み下さい。
当日の受付も可能です。

お申込み
テニユアトラック普及・定着事業事務局
tenure-track@ado.osaka-cu.ac.jp

プログラム

- 10:00~ [開会の辞]
- 10:10~ [講演] 荒川 哲男
大阪市立大学 学長
- 10:30~ [テニユアトラック教員研究発表 1]
蔡 凱 [Systems Control for
Future Industrial Automation]
麻生 隆彬「未来のバイオマテリアル」
- 12:00~ 休憩
- 13:00~ [講演] 竹内 秀明
岡山大学大学院自然科学研究科 准教授
「メダカの恋の三角関係の神経分子基盤」
- 14:00~ [テニユアトラック教員研究発表 2]
中臺 枝里子「小さな虫と健康長寿社会」
山口 良弘「微生物学のバイオテクノロジー
への応用」
- 15:30~ 休憩
- 15:40~ [講演] 村上 道夫
福島県立医科大学医学部 准教授
「基準と科学」
- 16:40~ [テニユアトラック教員研究発表 3]
遠藤 智司「新しい汚染物質の測り方」
- 17:25~ [閉会の辞]

テニユアトラック(TT)教員
麻生 隆彬 (都市研究プラザ/工学研究科 TT特任准教授 システム理論・制御理論)
中臺 枝里子 (総合先端研究機構/理学研究科 TT特任講師 機能性高分子/バイオマテリアル)
山口 良弘 (総合先端研究機構/理学研究科 TT特任准教授 微生物学・生体防衛学)
遠藤 智司 (都市研究プラザ/工学研究科 TT特任准教授 環境化学)

大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

お問い合わせ
大阪市立大学 テニユアトラック普及・定着事業事務局
TEL 06-6605-3662 E-MAIL tenure-track@ado.osaka-cu.ac.jp
URL http://www.otposaka-cu.ac.jp/

招待講演

岡山大学 竹内准教授

「メダカの恋の三角関係の神経分子基盤」と題して講演が行われました。メダカの三角関係（オス、オス、メス）において、メスはどちらか一方のオスを配偶相手として選択し、オスはライバルを牽制します。講演では、メスはオスとの親密性に基づいて配偶相手を選択すること、メスの選択を制御するホルモンやニューロンの最新知見、オスが三角関係でライバルに勝つために必要なホルモンの紹介が行われ、最後にメダカの研究から「ヒトのこころのルーツ」を知ることができる可能性について議論されました。動画を用いた、分かりやすく、大変興味深い講演でした。



福島県立医科大学 村上准教授

「基準と科学」と題して、健康リスク評価とその手法、また関連する科学のあり方に関する講演が行われました。講演では、福島原発事故後の放射線被ばくを例として、暫定基準設定の方法や、被ばく以外のリスクとの比較についての紹介が行われました。また、これからの福島に必要なことや、様々な事故・災害等を含むこれからのリスク管理についての提言などが行われ、基準の持つ本質的な意味を考えさせられる、大変意義深い講演でした。



蔡特任准教授

「Systems Control for Future Industrial Automation」と題して研究発表が行われました。社会の発展、経済の成長に伴い、産業やインフラは、前例のない大規模化や複雑化が進んでいます。その一方で、日本は急速な高齢化社会化や少子化が進んでいます。こうした産業の発展と労働力減少との不一致は、経済の持続的成長に大きな問題を生じさせます。発表では、上記問題を解決するために、産業における次世代の自動化技術が紹介されました。特に、システム制御方法とAlphaGo AI技術との相乗作用により、大規模な産業システム自動化の実現に向けた有望な構想が紹介されました。



テニュアトラック教員研究発表

麻生特任講師

「未来のバイオマテリアル」と題して研究発表が行われました。バイオマテリアルであるハイドロゲルについての基本的な原理・用途の紹介や身近な事例を交えながらの発表が行われ、2つのゲルの接着方法についての研究が紹介されました。また、未来に向けて、生体と外界をつなぐもの、生体と生体をつなぐものなど、生体に優しい材料を中心に研究を進めていくことが紹介されました。



中臺特任准教授

「小さな虫と健康長寿社会」と題して研究発表が行われました。超高齢社会を迎える今、健康寿命の延伸は重要な課題となっていること、線虫*C. elegans*は飼育が簡便、解析ツールが豊富、寿命が2~3週間と短いことなどから、老化研究において有用なモデル生物の一つであることを説明した後、線虫を用いた抗老化作用をもつ食品素材のスクリーニングや作用機序の解析について、最近の知見と将来展望についての興味深い研究発表が行われました。



山口特任准教授

「微生物学のバイオテクノロジーへの応用」と題して研究発表が行われました。微生物を材料にした基礎研究から応用研究への発展についてこれまでの発展を解説した後、山口テニュアトラック教員自身が発見した酵素を構造解析の研究に特化した試料調製にどのように応用するかについて、これまでの研究を交えながらの紹介が行われました。発表後には、他分野の研究者からも質問があり、有意義な議論の場になりました。



遠藤特任准教授

「新しい汚染物質の測り方」と題して研究発表が行われました。パッシブサンプリング法を用いた有機汚染物質の測定について、手法の特徴、有効性の紹介、今後の展望についての紹介が行われました。また、主に底質汚染評価への応用に関する研究成果並びに進捗状況の報告がありました。発表後には、パッシブサンプリングがリスクの管理にどのように活用出来るかについて活発な議論が行われました。



公立大学法人 大阪市立大学 テニュアトラック普及・定着事業 事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

TEL : 06-6605-3662 E-mail : tenure-track@ado.osaka-cu.ac.jp

ホームページ : <http://www.otp.osaka-cu.ac.jp/>